

平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	ITSSスキル標準の専門学校カリキュラムへの適応に関する研究開発		
法人名	学校法人 新潟総合学院		
学校名	新潟コンピュータ専門学校		
代表者	理事長 池田 弘	担当者 連絡先	木下 直彦 TEL 025-241-1123

1. 事業の概要

当事業は、IPA(独立行政法人情報処理推進機構)が提唱しているITSSスキル標準を専門学校カリキュラムに適用し、高度専門士を含めた情報系学生のスキルマップを研究開発する。

専門学校カリキュラムは、同じ情報系でも種類・レベルが各校まちまちであり、試験・検定も多くの種類が乱立している状態である。この状態は、学生にとっては将来的キャリアパスを見通せない原因となり、企業にとっては採用時に学生スキルレベルを評価しづらい原因となっている。また一方で、昨年度、専門学校に高度専門士が制定された。今後、高度専門士が社会的認知を得るためには、専門士との違いを明確にし、専門士レベル以上のキャリアパスを描く事が重要である。

上記の課題を解決するため、ITSSの骨組みに合わせ専門学校カリキュラムを再構築することで、情報系専門学校にとって標準的な学生スキルマップを構築する。専門学校、学生、企業が同じ人材育成に関するスキルマップを持つ事は、本来的にITSSが仕事をこなす上での能力評価であり、その意味で大学とは違う立場として実学志向の専門学校の信頼度を上げることに繋がる。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

本研究では、ITスキル標準に準拠した専門学校のスキル標準を策定し、その効果的な運用方法までを考察してきた。このITSS準拠専門学校スキル標準を学科運営の中に組み込むことで、学生にとっては、現在のスキルの可視化、キャリアパスの方向性を決めるのに有効であることが実証された。

また専門学校においても、各校の経営方針や学科運営方針が異なる中で、IT業界によい人材を輩出するという目標に向け、共通の指標で学生の管理が行えるという一定の方向性を見出せた。

今回の研究では、このITSS準拠専門学校スキル標準を企業にどのように見せていくかという考察までは行わなかった。しかし、企業と学校がITスキル標準という共通の指標で人材育成・評価を行うことは採用時の人材のミスマッチを解消する有効な手段となりえるだろう。

今後、より効果的な運用方法を模索するため、情報系専門学校が継続してこの研究に取り組み、専門学校全体でITSS準拠専門学校スキル標準の精度を高めていくことが重要である。

②事業により得られた成果

ITSS準拠専門学校スキル標準が出来上がったことが、成果である。このITSS準拠専門学校スキル標準については各専門学校の特徴にあわせるためのやり方や仕組みについてまとめられたため、汎用性の高いものになっている。また、それを踏まえたカリキュラム策定方法やシラバス策定方法、運用方法をまとめたため、各校の継続的な利用が可能になると考えられる。

③今後の活用

各専門学校独自のキャリアフレームワークを作成し、各学科の位置づけや方向性をITSSに準拠した形で定義することで、各学校にこのITSS準拠専門学校フレームワークを有効的に活用してもらいたいと考えている。新潟コンピュータ専門学校では、今回策定したカリキュラムの一部を試験的に導入して、今後のよりよい活用方法を探る予定である。

④次年度以降における課題・展開

各専門学校がITスキル標準についてより理解することが重要である。今回策定したカリキュラムは、教員一人ひとりがスキル標準を意識した授業展開を行うことが重要である。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

平成19年月中旬に、下記の各地区にある226社の企業に対して、ITスキル標準の動向を調査するためアンケートを行った。その結果、企業が求める(技術者の)人材像は、基本を十分に身に付け、さらにコンピテンシーを備えた学生と言える。高度専門士に対しては、さらに実践能力の高い人材を期待している。ITスキル標準は、時代のニーズに合った技術者育成・評価の仕組みとして、IT業界に着実に根をおろし始めている。職業人を育成することが専門学校の使命ならば、専門学校が教育内容を業界に合わせ変革していくことが必要である。

ITSS準拠専門学校スキル標準は、以上のことから、多くの情報系専門学校が積極的に活用することを期待する。

②カリキュラムの開発

下記の作業手順を通して専門学校が求めるところのITSS準拠専門学校スキル標準策定、カリキュラム策定を行った。

① 要求モデリング・ファンクションモデリング

専門学校が育成すべき人材像を定義し、その人材に必要なとされる要求事項を整理する。

② 目標人材モデル策定

情報系専門学校の2年課程、3年課程、4年課程で必要なスキルセットをまとめ、具体的な人材モデルを作成する。

③ 現状把握・人材戦略策定

SSI-ITSSにより学生の現状を調査し、目標人材モデルとのギャップから人材育成戦略を見直し、さらに精度を高め具体化する。

④ 育成プラン、評価・運用モデル策定

人材育成戦略を専門学校のカリキュラムに落とし込み、具体的な育成プランを作成する。また、実際に運用するにあたっての評価・運用方法を検討し、周期的に人材育成戦略を見直す体制を整える。

⑤ 育成プラン、評価モデル、運用モデルの実施・分析・改善

当事業で研究開発した成果は、一部をH19年4月以降に学校運営に適用し、実際に運用して評価し改善する。

③実証講座

専門学校6校にご協力いただき、各学校のIT系学科約30名ずつ、合計171名を対象に、現状の専門学校生をこのITSS準拠専門学校スキル標準に適応した場合、どのような成果や問題点があるか検証した。その結果、学生側も学校側もITスキル標準の効果としてスキルの可視化を挙げている。ITSS準拠専門学校スキル標準という指標の中で、現在置かれている状況が一目で分かることは、今後の計画を立てる上で効果がある。また、学生にとっては、今後のキャリアパスを決定するための指標としてだけでなく、新たに習得していかなければならないスキルが提示されることで、モチベーション維持や目標設定に有効であることが実証された。

④その他

本研究では、ITスキル標準に準拠した専門学校用のスキル標準を策定し、その効果的な運用方法までを考察してきた。このITSS準拠専門学校スキル標準を学科運営の中に組み込むことで、学生にとっては、現在のスキルの可視化、キャリアパスの方向性を決めるのに有効であることが実証された。

また専門学校においても、各校の経営方針や学科運営方針が異なる中で、IT業界によい人材を輩出するという目標に向け、共通の指標で学生の管理が行えるという一定の方向性を見出せた。

今回の研究では、このITSS準拠専門学校スキル標準を企業にどのように見せていくかという考察までは行わなかった。しかし、企業と学校がITスキル標準という共通の指標で人材育成・評価を行うことは採用時の人材のミスマッチを解消する有効な手段となりえるだろう。

今後、より効果的な運用方法を模索するため、情報系専門学校が継続してこの研究に取り組み、専門学校全体でITSS準拠専門学校スキル標準の精度を高めていくことが重要である。